

令和7年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。
- (4) 桶川市ホームページ内にて、桶川市の結果概要等が掲載されていますのでご覧ください。

URL: <https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html>

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和7年4月17日(木)

4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語、算数、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【小学校 国語・算数・理科 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	78.9	77.5	76.9
情報の扱い方に関する事項	1	65.3	64.8	63.1
我が国の言語文化に関する事項	1	82.6	81.5	81.2
話すこと・聞くこと	3	70.0	67.3	66.3
書くこと	3	70.5	71.1	69.5
読むこと	4	58.5	58.4	57.5

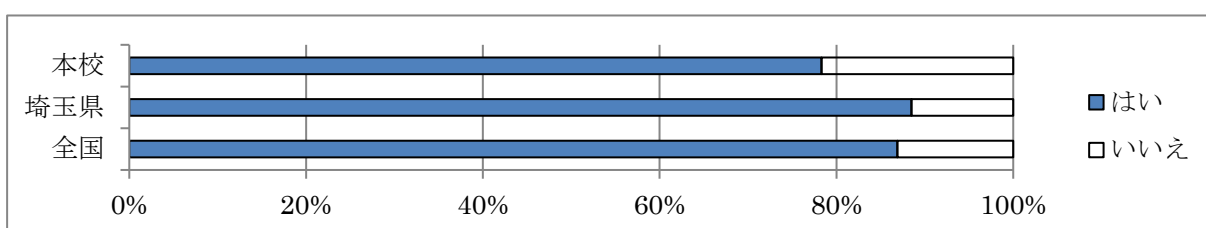
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	8	61.9	63.1	62.3
図形	4	52.7	54.7	56.2
測定	2	51.7	53.9	54.8
変化と関係	3	53.4	57.9	57.5
データの活用	5	64.1	63.4	62.6

理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	4	48.8	46.6	46.7
「粒子」を柱とする領域	6	54.7	52.7	51.4
「生命」を柱とする領域	4	56.6	53.1	52.0
「地球」を柱とする領域	6	67.1	67.7	66.7

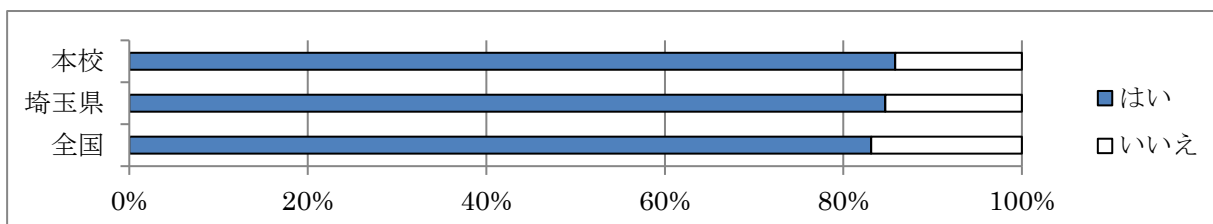
<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

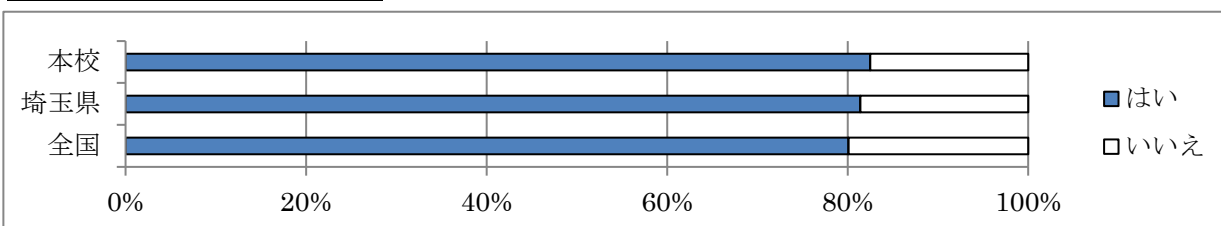
自分には良いところがあると思いますか。



将来の夢や目標をもっていますか。



理科の勉強は好きですか。



<国 語>

【分析の概要】

指定された複数の条件を満たして書くことの経験を積ませる必要がある。

【問題】

登場人物が納得したことを、
 ①資料1から言葉や文を取り上げて書く。
 ②納得した理由を、資料2～4の中から言葉や文章を取り上げて書く。
 ①②の条件を満たして書きましょう。

【誤答例】 2つの条件を満たさず文章を書いてしまう (誤答率: 54.5%)

【改善策】 ①自由に文章を書かせるのではなく、意図的に条件を提示し文章を書かせる。
 ②書き上げた文章を児童相互に見合う活動の中で、条件を満たしているか否か気づくように学び合う活動を取り入れる。

<算 数>

【分析の概要】

計算結果を見積もる力（見通す力）や既習内容を活用する能力を日常の授業で少しずつ積み上げる必要がある

【問題】

10%増量後のハンドソープの量が、増量前の何倍かを選択しましょう。
①0.1倍 ②1.1倍 ③10倍 ④110倍

【誤答例】①の0.1倍を選択（40%）、③の10倍を選択（15%）、正答（33%）であり、もとになる「1」を意識して解答することができなかった児童が多数いた。

【改善策】①百分率と割合を正しく理解できるよう復習する。
②1より「大きい数」「小さい数」でかけたり、わったりした場合の商や積の見積もりをある程度予測できるよう、既習事項を復習する。

<理 科>

【分析の概要】

理科の学びと日常生活をより、身近なもののできるよう学びを広げていく必要がある。

【問題】

アルミニウム、鉄、銅について、
①電気を通すか ②磁石に引き付けられるか
それぞれの性質に当てはまるものを選択しましょう。

【誤答例】3種の金属についてすべて正解できずに不正解の児童が多かった。正答率11.6%しかし、全国・埼玉県の平均正答率より1ポイントほど高かった。

【改善策】①理科の見方・考え方を存分に働かせた授業を中学年の段階から継続的に行っていく。
②理科での学びが、日常生活の深く結びついていることを実感できる授業づくりを心がける。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[埼玉県学力・学習状況調査](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html) 埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和7年5月14日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	12	63.0	62.7	12	77.2	74.9	15	71.8	70.0
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	41.6	41.2	4	67.9	64.6	2	77.8	69.9
話すこと・聞くこと・書くこと	9	49.0	46.1	6	47.0	46.4	5	52.7	49.9
読むこと	4	50.7	50.0	8	63.6	56.2	9	47.3	44.2
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	66.5	67.3	14	49.3	52.0	13	62.7	59.0
図形	5	63.3	64.9	8	53.6	52.1	8	42.8	43.9
4年測定 5,6年変化と関係	7	73.5	68.2	6	33.2	36.1	7	59.3	54.5
データの活用	6	66.2	62.5	4	48.0	46.5	5	43.4	45.7
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段: 県の達成率、下段: 本校の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年	
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻	93.3 93.6	93.9 92.0	94.4 89.5	
	② 授業の開始時刻	88.4 91.8	91.2 88.3	95.4 94.4	
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ	77.8 77.3	80.7 72.3	87.4 81.5	
	④ 整理整頓	81.4 78.2	78.1 84.7	80.2 74.2	
	○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
		⑤ あいさつ	81.5 80.0	82.0 78.1	84.5 75.0
⑥ 返事		88.5 87.3	91.1 86.9	93.6 87.9	
4 ていねいな言葉づかいを身に付ける					
⑦ ていねいな言葉づかい		88.7 83.6	90.3 93.4	92.9 88.7	
⑧ やさしい言葉づかい		85.5 82.7	86.9 81.8	89.4 83.9	

○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	82.4	85.9	89.7
		85.5	83.2	83.1
	⑩ 話を聞き発表する	83.8	83.2	83.7
		83.6	76.6	75.8
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	82.9	84.6	87.8
		88.2	79.6	83.1
⑫ 掃除・美化活動	87.7	87.3	88.9	
	93.6	84.7	91.1	

本校の学力向上の取組

授業における取組

★1 個別指導の充実

- (1) 教科を指導する教員と教育指導補助員が連携し、きめ細やかな指導をします。
- (2) 単元開始前に児童の理解度を確認し、授業改善に活かします。
- (3) ワークシートやデジタルドリル等を用いて、単元ごとの習熟度の確認をします。

★2 言語活動の充実

- (1) 教科指導の中で、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で対話的な学びの時間を確保します。
- (2) 自らの考えをノート等に「書く」活動を計画的に実施します。
- (3) 児童の発言内容に教師が問い返すことで、より深く言語化できるよう促します。

■3 学習に対する態度の育成

- (1) ICT機器を活用した授業など、疑問や探究心を湧き立たせるような教材選択や指導の工夫を行います。
- (2) 教員による評価だけでなく、児童自身による自己評価や、児童同士による相互評価を日常化を行い、自己肯定感を育む教育活動を実践します。

■4 学習指導の充実を図るため、中学年以上の各学年内で一部教科担任制を行います。

授業以外の取組

■1 家庭学習の習慣化

- (1) 宿題や家庭学習で、『10分×学年』の時間を取るよう声かけをしていきます。
- (2) 「家庭学習の手引き」を作成し、配付することで家庭学習の習慣化に活かします。
- (3) 宿題や家庭学習の頑張りを、学校で認め励ますようにします。

★2 朝の活動の工夫改善

- (1) 国語の課題を踏まえて、木曜日を隔週で読書の時間とし、本に触れる時間を増やします。
- (2) 体育(体力)の課題を踏まえて、木曜日を隔週で体力づくりの時間とし、全校で体を動かす時間を増やします。

■3 教員のスキルアップのための校内研修会を実施し、指導力の向上を図ります。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン

毎年、上記調査等の結果を踏まえ見直し、改善しています。(赤字部分が今回の改善点です。)

学力向上プラン

日本国憲法 教育基本法 学校教育法
学習指導要領
埼玉県教育行政重点施策
埼玉県教育振興基本計画
第4期埼玉県教育振興基本計画
指導の重点 (埼玉県教育委員会)

児童・家庭・地域の実態

- 児童は明朗、素直、協力的であるが、高学年になるにつれ自己肯定感が低くなる傾向が見られる。また、自己を表現する力も弱い傾向が見られる。
- 児童数の激増傾向が見られ、保護者はPTA活動に協力的である。共働き家庭や一人親家庭の割合が少なくない。
- 学区は畑作地や雑木林の跡に広がる新興住宅地が多くなり、旧住民の割合は低下している。

各教科等の指導の重点

- 国語**
- 望ましい言語環境の整備をする。
 - 確かな言語能力の育成と評価の工夫をする。
 - 日常生活で活用できる言語能力を身に付けさせるため、言語活動を充実させる。
- 社会**
- 児童が主体的に取り組めるような学習環境を整備する。
 - 地域素材の収集と教材化を進め、児童が興味をもって取り組めるような工夫をする。
 - ICT機器を活用するなどの授業展開の工夫・改善を図る。
- 算数**
- 児童が主体的に学習できるよう教材研究を充実するとともに、児童一人一人の単位時間ごとの学習内容の定着状況を確実に見届け、指導と評価の一体化を図る。
 - 数学的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで学習に取り組もうとする態度を育てる。
- 理科**
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着と科学的な思考や表現力の育成を図る。
 - 予想や仮説を基に観察、実験などを行い、問題解決に力を養う。

指導法の重点

『根拠と理由』の問い返し

「学習方略」を意識した実践

令和8年度 桶川西小学校学力向上プラン全体計画

学校教育目標

- かしこく ・自ら考える子
- ゆたかに ・思いやりのある子
- たくましく ・進んでほたたく子
- つよい心と体をもつ子

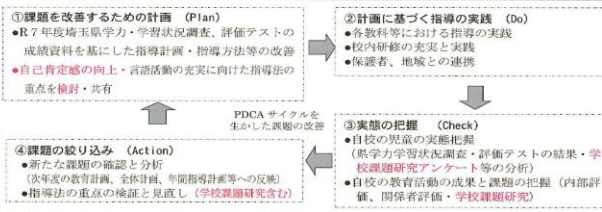
目指す学校像

子供、保護者、地域に信頼される学校

- (学力向上にかかわる方針)
- 基礎的・基本的な学力を明確にし、確実に身に付ける。
 - 基礎的・基本的な規律態度を明確にし、着実に身に付ける。
 - 生涯にわたる学び続ける姿勢を構築するため、様々な学び方を体験させ、児童が自分にあった学び方を選択できるようにする。

令和7年度埼玉県学力・学習状況調査及びアンケート等から見た成果 (○)・課題(▲)

- 認知能力 (数値で見える学力) が高い学年が多い。
- ▲非認知能力 (数値化が難しい能力) が低い学年が多い。
- ▲学習方略についても、多くの項目で県平均を下回っている。
- ⇒非認知能力 (特に自己肯定感) や様々な学習方略の意図的実施に目を向けた授業改善
- 選択式・短答式の正答率が非常に高い学年が多い。
- ▲記述式の正答率が低く、特に既習事項を根拠に説明する問題の正答率が低かった。
- ⇒学び合いの実践と、「根拠と理由」の問い返しを取り入れた授業改善
- ▲アンケート結果から、学習時に行き詰まった時や、見直しなどの場面でねばり強さが低い傾向や、自分によいところが見つけられていない傾向が顕著に見られた。
- ⇒自己肯定感を高め、学習の楽しさを味わわせ、ねばり強く取り組み態度を育む授業改善



各教科等の指導の重点

- 体育**
- 身に付けさせたい具体的な内容を明確にし、自己の課題を見つけ、解決するための場を工夫する。
 - 認め合い、励まし合える場を積極的に設けることで、対話的な活動を通して、課題を解決する場面を設ける。
- 音楽**
- 楽譜の基礎的な読み方を定着させ、表現に生かすようにするとともに、**自らの良さ**を認め合える場を設け、**自己肯定感を高める**。
 - 記号・音楽用語・共通事項等の提示物を提示し、各活動の中で音楽的な見方が養われるよう意識化を図る。
- 図画工作**
- 自分の思いや願いの表れた作品づくりができるよう、授業計画や材料の工夫し、**自らの良さ**を認め合える場を設け、**自己肯定感を高める**。
 - 色の性質や材料の特徴などを生かした作品づくりができるよう授業展開を工夫する。
- 家庭科**
- 家庭の協力を得て、実践を通して、家庭での役割を自覚させるとともに、**自らが家族にとって欠かせない存在であること**に気づかせる。
 - 実践的、体験的な活動を通して、用具の適切な扱い方を指導し、習得させる。
- 生活科**
- 具体的な活動や体験を通して、**自らの生活をより豊かにするための気づき**を大切にできるよう授業展開を工夫する。
- 外国語活動・外国語**
- 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を備わせ、5領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地や基礎的な資質・能力を育成する。
 - ALTとの連携を図りながら、効果的なALT活用を行う。
- 総合的な学習の時間**
- 探究的な見方・考え方を働かせ、より課題を解決できる授業を展開するとともに、**自らの良さ**を認め合える場を設け、**自己肯定感を高める**。
 - 地域や学校、児童の実態を生かし、学習環境の整備と保護者や地域の支援体制づくりを行う。
- 道徳教育**
- 道徳的価値の自覚及び、自己の生き方についての考えを深める道徳的授業の着実な実践と充実を図るとともに、**自らの良さ**を認め合える場を設け、**自己肯定感を高める**。
 - 学校・家庭・地域社会が一体となった道徳教育の充実を図る。
- 特別活動**
- 異年齢児童の活動を通して、児童間の関わりを深める。
 - 学級活動の充実を図り、話し合い活動を活発にする。
 - 体験活動を充実させ、児童一人一人が学級や学校におけるよりよい生活や人間関係を築くとともに、**自らの良さ**を認め合える場を設け、**自己肯定感を高める**。

様々な学習方法を体験させ、各教科の基礎的・基本的な知識・技能と規律ある態度を身に付け本校児童の学力を向上させるとともに、自己肯定感の向上を目指す。

<具体目標>

- 令和8年度全国学力・学習状況調査において、埼玉県・全国平均正答率を上回ることを目指すとともに、国語・算数を「好き」と回答する児童の割合50%以上を目指す。
- 令和8年度埼玉県学力・学習状況調査で、学習方略数値の向上 (県平均と同等へ向上) と、自己肯定感及び規律ある態度の数値を前年度より上回ることを目指す。

改善の観点	I		II		III		IV		V		VI		VII			
	指導内容	指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	学習指導要領の理念を踏まえた教育課程の編成	新教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	校務体制の補完と実施の工夫	学校評価・検証の計画と実施	家庭や地域社会との連携の工夫							
取組の基本方針	○基礎的・基本的な知識の習得と活用	○説明文や書く活動の学習に重点を置く	○各教科、各学年間の系統的な指導の工夫	○単元の配当時間の工夫	○調べ方やまとめ方、表現の仕方など、教科横断的な指導の計画	○教科書改訂に伴う新しい年間指導計画の作成と、計画的な見直し	○主体的、対話的で深い学びの実現6期での活用	○自己肯定感を育む教育活動の実践	○認め・励ます評価の実践 (学校課題研究)	○本校職員による自己評価	○保護者地域住民アンケート	○校内評価委員会	○学校運営協議会	○学習環境の整備	○結果の公表等	○学力向上プランの見直し・共有
課題解決のための具体的取組 (場と方法)	○ICTの活用・充実	○「まなびタイム」等における、コパシートの活用	○体験的な学習、問題解決的な学習の計画的な位置付け	○家庭学習の手引き配付	○学習案内配付	○教科領域部会	○校内授業研究会	○通知表配付 (学期ごと)	○教育支援担当学校訪問	○校内授業研究会	○教育支援担当学校訪問	○巡回支援	○学校より	○全国学力・学習状況調査	○埼玉県学力・学習状況調査	○新体カテスタの実施
関連する行事等	○教育支援担当学校訪問	○学校公開日	○校内授業研究会	○学校課題研究発表会												

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査平均正答率

※数値は、平均正答率 (%)、■は埼玉県平均正答率を上回ったもの

教科・区分	4年生			5年生			6年生		
	本校	桶川市	埼玉県	本校	桶川市	埼玉県	本校	桶川市	埼玉県
集計結果	53.6	53.2	52.5	66.3	63.8	62.8	62.0	61.8	59.3
読書の習慣や読み方	63.0	62.5	62.7	77.2	75.1	74.9	71.8	72.2	71.8
情報の見方・使い分けの活用	41.6	40.0	41.2	67.9	66.4	64.6	77.8	71.5	69.9
話すこと・聞くこと、書くこと	49.0	48.5	46.1	47.0	47.2	46.4	52.7	53.4	49.9
読むこと	50.7	52.5	50.0	63.6	58.0	56.2	47.3	47.1	44.2
学方の構い	—	—	—	4	3	3	2	2	2
学方構いに関する評価	—	—	—	—	—	—	—	—	—

教科・区分	4年生			5年生			6年生		
	本校	桶川市	埼玉県	本校	桶川市	埼玉県	本校	桶川市	埼玉県
集計結果	67.5	67.1	66.2	47.2	48.0	48.3	54.3	54.3	52.4
数と計算	66.5	67.5	67.3	49.3	50.2	52.0	62.7	61.1	59.0
図形	63.3	63.1	64.9	53.6	52.4	52.1	42.8	44.8	43.9
変化と関係 (図表)	73.5	70.8	68.2	33.2	37.4	36.1	59.3	57.8	54.5
データの活用	66.2	65.4	62.5	48.0	47.4	48.0	43.4	47.0	45.7
学方の構い	—	—	—	2	2	2	1	2	2
学方構いに関する評価	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※規律ある態度の数値 (本校H P参照) 向上の根拠にある「自己肯定感の向上」に向けた取り組みを教育活動全体で実施し、数値の向上を目指す。

令和7年度 全国学力・学習状況調査平均正答率

	国語	算数	理科
全国	66.8	58.0	57.1
埼玉県	58	58	68
本校	69 (+2.2)	57 (-1.0)	60 (+2.9)

※数値は、平均正答率(%)、本校()内の数値は、全国平均正答率との比較を示したものです。

【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			県校	埼玉県(公立)	全国(公立)
全体		16	57	58	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.9	63.1	62.3
	B 図形	4	52.7	54.7	56.2
	C 測定	2	51.7	53.9	54.8
	C 変化と関係	3	53.4	57.9	57.5
	D データの活用	5	64.1	63.4	62.6
評価の観点	知識・技能	9	65.6	65.9	65.5
	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	7 0	45.5 -	47.9 -	48.3 -
問題形式	選択式	6	66.5	67.6	67.2
	短答式	6	62.4	64.6	64.0
	記述式	4	33.7	33.8	34.9

【質問紙調査】

	そう思う	ややそう思う	やや思わない	思わない
自分には、よいところがあると思いますか。	33.3	45.0	11.7	10.0
学校に行くのは楽しいですか。	38.3	40.8	11.7	9.2
国語の勉強は好きですか。	10.8	33.3	34.2	21.7
算数の勉強は好きですか。	25.8	18.3	30.0	25.8

これらの質問内容について、肯定的な回答をする児童の割合を高めたい。
⇒「自己肯定感の向上」に向けた取り組みを教育活動全体で実施し、数値向上を目指す。

【国語】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			県校	埼玉県(公立)	全国(公立)	
全体		14	69	68	66.8	
学習指導要領の領域	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	2	78.9	77.5	76.9	
	(2) 情報の扱い方に關する事項	1	65.3	64.8	63.1	
	(3) 我が国の言語文化に關する事項	1	82.6	81.5	81.2	
評価の観点	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	70.0	67.3	66.3
	B 書くこと	3	70.5	71.1	69.5	
	C 読むこと	4	58.5	58.4	57.5	
問題形式	知識・技能	4	76.4	75.3	74.5	
	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	10	65.5	64.9	63.8	
	選択式	9	67.0	66.0	64.7	
問題形式	短答式	3	80.7	78.9	78.5	
	記述式	2	57.9	59.7	58.8	

【理科】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			県校	埼玉県(公立)	全国(公立)	
全体		17	60	58	57.1	
学習指導要領の領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.8	46.6	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	54.7	52.7	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	56.6	53.1	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	67.1	67.7	66.7
評価の観点	知識・技能	8	56.4	55.5	55.3	
	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	9 0	63.2 -	60.3 -	58.7 -	
	選択式	11	56.5	55.1	54.7	
問題形式	短答式	4	76.0	71.7	69.7	
	記述式	2	47.1	46.9	45.2	

保護者・地域の皆様へ

昨年度に引き続き、児童の自己肯定感を高め、ねばり強く取り組む態度を育んでいけるよう指導をしてまいります。また、家庭学習の手引きを作成しましたので、お子様の家庭学習の一助としていただければ幸いです。

今後も、児童のよりよい成長を期し、保護者や地域の皆様と連携しながら教育活動をすすめてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。